

農業

平成26年8月号
会誌 No. 1588



目次

巻頭言

「北の大地に挑む—農業教育の軌跡」を読んで……………貝沼 圭二 3

論 壇

農業・農村所得を倍増？……………生源寺真一 4

春期中央農事講演会

注目される植物工場……………古在 豊樹 6

—サステイナブルな植物工場の実現をめざして—

あいさつ……………6

講 演……………7

質疑応答……………22

表彰農家訪問

養液栽培によるバラ切り花の周年安定生産……………今西 英雄 29

—奈良県生駒郡平群町に中筋弘氏を訪ねて—

研究の最前線

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故からの
復興に向けた福島県農業総合センターの取り組み……………吉田 清 38

農業・農村の現場から

奄美のタンカンでむらおこし……………稲森 博行 49

世界の農業は今

中国雲南省デチェン・チベット族自治州の農業……………田中 貴 56
—梅里雪山のふもと、明永村の事例— 白瑪 次木

統計情報…………… 63

農政情報…………… 64

大日本農会だより…………… 65

表紙写真説明

「山鹿灯籠まつり」に見る地域作り（熊本県山鹿市）

毎年8月中旬、熊本県山鹿市では有名な「山鹿灯籠まつり」が行われる。山鹿市と言え
ば、他に八千代座や古墳などでも知られるところである。この祭りは、古事記、日本書紀
に登場する景行天皇が筑紫路巡幸の折りに行く手を霧に阻まれ、山鹿の里人が松明に
よって無事に御一行を迎えたという故事を基にしている。これが松明を使った火祭りの
行事となり、江戸時代に金・銀の紙細工による灯籠を模したものが作られ、そして現在は
浴衣姿の女性がこの灯籠を頭に載せて踊る壮大な「千人灯籠踊り」へと発展した。また、
この踊りのメインの民謡である「よへほ節」は、昭和に入って野口雨情が現在の歌詞へと
洗練し、まさに全国的に知られる祭りとなっている。

この歴史を見ると、地元の文化を大事に育て上げ、人を呼び込むまでに作り上げた地
域の人たちの足跡を見ることができる。

(写真・文：澤田 清氏)